



# 福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

# 学 報

2021.12.10 Vol. **170**

## 三蔵五訓

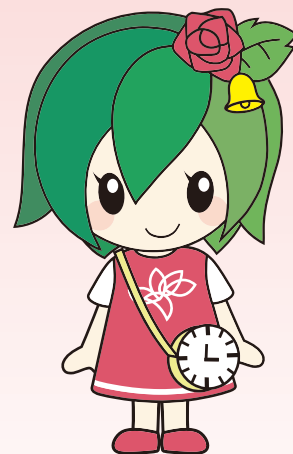
真理を探究し,道理を实践する。  
豊かな品性を養い,不屈の魂を育てる。  
生命を尊重し,自然を畏敬する。  
個性を伸展し,紐帯性を培う。  
未来を志向し,可能性に挑む。



キャンパスイルミネーションと打ち上げ花火

## 揺るぎなく前進！

キャンパスイルミネーションを開催&点灯式で打ち上げ花火を披露！…	1
コロナ禍と福山大学 .....	1
オンライン授業への取り組み .....	3
第47回 三蔵祭 .....	5
トピックス .....	7
地域連携活動 .....	8
活躍する教員&学生 .....	11
入試広報室から .....	15



福山大学イメージキャラクター  
「ふくりん」

# キャンパスイルミネーションを開催&点灯式で打ち上げ花火を披露!



crossing gardenから見たイルミネーションと花火



未来創造館とイルミネーション

今年度もコロナ禍のため様々な行事が中止・縮小されましたが、皆様の気分が少しでも晴れることを期待して、学友会執行部及び三蔵祭運営委員会がキャンパスをイルミネーションで飾ることを企画・設営しました。昨年より更にパワーアップし、なんと今年は点灯式当日に併せて「打ち上げ花火」を披露しました。この学報170号の表紙は、キャンパスイルミネーション点灯式の写真です。

当日は学内関係者のみならず、学外からも多くの方がお越しくださいました。コロナ禍でも積極的にキャンパスを盛り上げようとする学生を今後も応援していただければと思います。

イルミネーションは12月下旬まで点灯予定です。なお、点灯式の様子をドローンで撮影した動画をYouTubeで公開していますので、是非ご覧ください。

学生課



福山大学  
キャンパスイルミネーション2021



【福山大学】  
イルミネーション点灯式2021  
(花火&イルミネーション)

## コロナ禍と福山大学

### 福山市内3大学連携大学拠点 新型コロナウイルスワクチン接種を実施!

本学は、福山平成大学及び福山市立大学と連携して、9月1日(水)～9月5日(日)(1回目)及び9月29日(水)～10月3日(日)(2回目)まで、新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種(職域接種)を実施しました。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる社会的要請に応えるとともに、学生・教職員の健康と安全を守り、学生が学修や学生生活を安心して行えるよう取り組んだものです。

接種にあたっては、3大学の学生、教職員、近隣の教育関係者等を対象に、医師・看護師・薬剤師の資格を有する教員等と共に福山市医師会の協力を得て、学校法人福山大学社会連携推進センターを会場として行いました。

#### 実施状況

接種人数	1回目の接種者	合計2,424名 (内、福山大学学生986名)
	2回目の接種者	合計2,400名 (内、福山大学学生977名)

事務局次長 大高 弘士



ワクチン接種の様子



ワクチン充填の様子



ワクチン接種待機場の様子



# コロナ禍におけるオープンキャンパス

令和3年度のオープンキャンパス実施計画は例年通り、第1回見学会を6月26日(土)、第1回体験入学会を7月17日(土)、第2回体験入学会を8月22日(日)、第2回見学会を9月11日(土)に実施するよう計画していました。しかし、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、実施内容を再検討・変更せざるを得ない状況となりました。

入試委員会では対面とWeb(Zoom)を利用した学科ライブ企画の両睨みでの運営を考えていましたが、やはりコロナ禍のため、第1回目の6月26日(土)の見学会はWeb(Zoom)を利用した学科ライブ企画、学科個別相談、入試相談を実施することに決定しました。

また、昨年同様、オープンキャンパス当日のライブ企画とは別に、いつ、どこでも視聴可能な福山大学の動画コンテンツを複数HPに掲載し、各学科の紹介を幅広く閲覧可能としました。



対面でのキャンパス見学会の一コマ

6月26日(土)に実施した1回目のWebオープンキャンパスには、昨年度の参加者数を大きく上回り、学科ライブ企画に100名、学科個別相談に41名、入試個別相談に22名の高校生・保護者の参加がありました。

7月17日(土)の2回目のキャンパス見学会は、幸運にも対面での開催が可能な状況となりました。昨年度と同様に、学食体験コーナーやキャンパス見学ツアー、ガールズトークなどの企画は取りやめ、密を避けるために各学科で高校生の参加人数を制限し、保護者の参加は1名まで、自動検温システムを利用した体温測定、マスクの着用、手指のアルコール消毒など、万全の新型コロナウイルス感染症防止対策を実施したうえで、午前10時から12時までの2時間と午後2時から4時までの2時間の2部制で実施しました。また、海洋生物科学科については参加者を高校3年生に限定し、午後の部のみ尾道市因島にある内海生物資源研究所で実施しました。1部には221名、2部には198名の高校生・保護者の参加者がありました。

後半の8月22日(日)と9月11日(土)についても対面での実施を計画していましたが、緊急事態宣言が発令されるなど、やむなく6月と同様、Web(Zoom)を利用した学



Webによるキャンパス見学会の一コマ

科ライブ企画や学科個別相談、入試相談を実施することになりました。

8月22日(日)のWebオープンキャンパスは、午前の部と午後の部の2部制で実施し、学科ライブ企画には午前の部に300名、午後の部に198名の高校生・保護者の参加がありました。

9月11日(土)のWebオープンキャンパスも、午前の部と午後の部の2部制で実施し、学科ライブ企画には午前の部に68名、午後の部に33名の高校生・保護者の参加がありました。また、Web入試個別相談も実施し、7名の参加がありました。

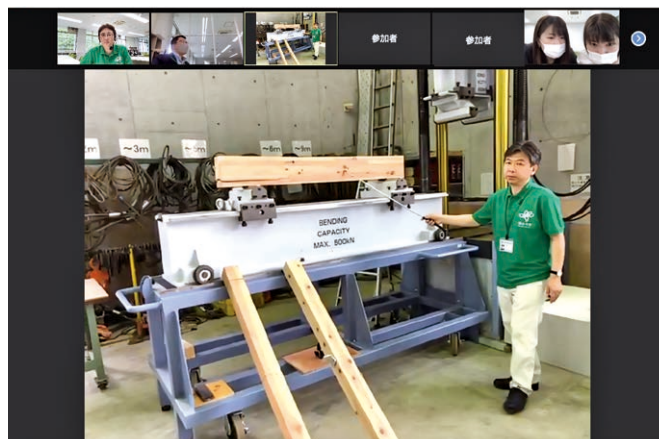
昨年度は対面でのキャンパス見学会を2回開催できましたが、今年度は1回しか開催できませんでした。しかし、高校生もWebでの開催に慣れてきているのか、昨年度を大きく上回る参加者数となりました。

さらに、10月31日(日)にもWebによる入試個別相談会を計画したところ、5名の高校生・保護者の参加がありました。

今後は、令和4年3月12日(土)午後から「春の見学会」の実施を予定しています。現在は、当日のタイムスケジュール等について検討中で、各学部・学科で工夫を凝らした見学内容を企画中です。

近々、ホームページ(<https://www.fukuyama-u.ac.jp/>)でご案内させていただきますので、それまでしばらくお待ちください。

入試広報室



Webによるキャンパス見学会の一コマ



# オンライン授業への取り組み

## 経済学部 『専門科目スポーツマネジメント論』

「スポーツマネジメント論」は経済学科の専門教育科目です。今年度は「スポーツを通じた福山市の活性化」をメインテーマに据え、福山市スポーツ協会、福山シティ FC、一般社団法人ITADAKIの三者と提携し、講義を展開しました。また、オンラインでもアクティブ・ラーニング形式は変更せずに進めようと方針を決め、講義を設計しました。

概要は、受講生：約70名、講義形式：Zoomによるオンライン授業、講義内容：グループによる企画立案及びプレゼンテーションです。

具体的には受講生を全13グループに分け、前提となる情報提供のレクチャー、ブレイクアウトルーム機能を使用してのグループディスカッション、議論の報告やプレゼンテーション、講師陣からのフィードバックという形式を毎時間繰り返しました。

慣れない講義形式ではありましたが、教員・学生ともに楽しみながら取り組むことができ、最終発表会では全グループが様々なアイデアを形にして、立派にプレゼンテーションをしてくれました。「遠隔でもアクティブ・ラーニング形式を」という目標は一定程度達成できたと思います。さらに、遠隔と対面

のハイブリッド、講義時間外のZoomでのグループワーク、外部講師の参加のしやすさなど、オンライン講義の可能性を感じることができたのも成果の一つと考えています。

最後に、協力団体の皆さんの学生に対する献身的なご指導に感謝申し上げます。

経済学科 准教授 吉田 卓史



## 人間文化学部 『オンライン授業への取り組み』

2021年度前期の授業は昨年に引き続き、コロナ禍のために遠隔形式で始まりました。対面授業の再開は7月までずれ込みました。想定していたこととは



はいえ、学生の皆さんにとっては戸惑いも大きかったのではないのでしょうか。このような状況における授業のありようについて、私の担当科目「ヨーロッパの歴史と文化」で

の実践の一端を紹介します。

本科目の主題は「ヨーロッパ都市探訪」、具体的にはロンドン、パリ、ウィーン、ベルリンにおける都市の近代化、並びに産業革命、警察、売春、万国博覧会、ヒトラー、ベルリンの壁などを論じました。ただし、オンライン授業では映像資料を使えないため、いくつかの工夫を講じました。(1)パワーポイント資料とレジュメ、並びにレジュメの解説動画を用意し、復習しやすいように努める。(2)受講者からの質問に対しては、可能なかぎり詳細な返答を書く。共有すべき質問については、次の授業の際に言及する。(3)自習時間を確保するために、授業内容に関するレポートを出す。その際には、当時の史料や授業内容に関連する論文をPDF化して掲示するとともに、教員側から「補助線」を提供し、自らの考えを深めてもらいました。歴史は暗記物と考えられがちですが、受講者は厳しい環境のなかで思索を深めてくれたと思います。

人間文化学科 准教授 村上 亮

## 工学部 『情報工学科のオンライン授業』

情報工学科の授業「プログラミング応用」の様子を報告します。

「プログラミング応用」は2年生の必修科目であり、とても重要な科目です。この授業は、学生が自分でプログラムを作成しながら学修していく演習であり、本来ならPC室に皆さんが集まって行うのですが、昨年度から遠隔授業の方式で行うことを余儀なくされています。

基本は遠隔のオンデマンド形式で実施して、その他にも木曜4限目にZoomで生配信を行っており、Zoomで学生からの質疑応答ができるようにしているのですが、あまり活用してられません。プログラミングを学ぶ演習では、学生からの質問を直接聞いて、直接答えることが重要で、それができないと、ついていけなくなる学生が増えてしまいます。その対策として、本演習で学修に不安を感じている学生は、希望すれば大学に来て(遠隔の)授業を大学で受けてもらうようにしています。Zoomで配信をしている部屋のすぐ横に自習スペースがあり、そこで学生が各自演習に取り組めます。自習スペースは、それぞれの机がパーティションで区切られており、感染予防対策も万全です。この形式を採用してから、演習問題や

課題の提出状況は良くなったと思います。

厳しい状況に負けないように、ついていけなくなる学生を減らし、一人でも多くの学生が無事に学修が終えられるように工夫していきたいと思います。

情報工学科 准教授 宮崎 光二





## 生命工学部 『学芸員資格科目のハイブリッド型授業の取り組み』

海洋生物科学科には、学芸員養成課程が設置されており、今年度は41名の学生が履修しています。この課程は水族館への就職など、将来、学芸員として働くために必須の資格で、



博物館学に関わる専門的な知識を学んでいます。そのため、コロナ禍ではあっても、可能な限り対面での授業が望まれています。しかし、学生の学修環境によっては、オンラインでの開講の希望もありました。そこで今回、対面授業とオンライン授業の両方を同時に行う「ハイブリッド型授業」で開講しました。

対面での履修が可能な学生は、コロナ対策を施した大学の教室で授業を受けてもらい、オンラインを希望する学生には、Zoomを用いて授業の様子を視聴する方法で参加してもらいました。教員が用意した講義資料は、教室の大きなスクリーンに映し出すとともに、オンラインで受講する学生にも画像を共有します。また、教員の解説も、教室とオンラインの双方が同じ内容を聞くことができました。博物館展示論で作成した展示物を全員で共有する授業日では、教室にいる学生とオンラインの学生をZoomで結び、全員が作品の鑑賞と評価を実施することができました。

今後も、資格科目で重要となる実践的な授業と、その息遣いを感じることのできるオンラインの双方を通じて、学生の学びの機会を確保していきたいと思います。

海洋生物科学科 講師 真田 誠至

## 薬学部 『iPhoneで撮影した板書の講義動画による遠隔授業』

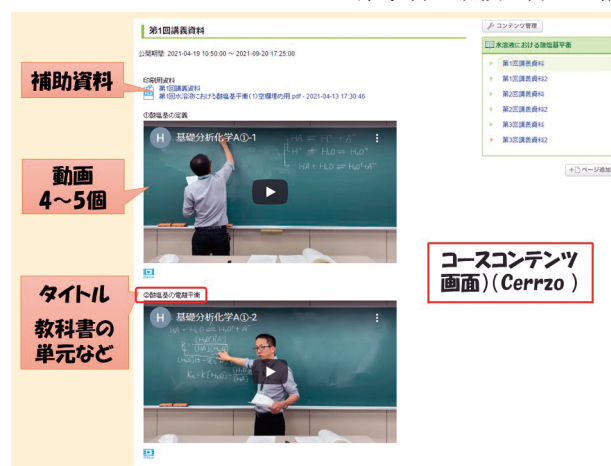
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、遠隔授業の利用が2年目になりました。昨年度の遠隔授業では、学生の通信状況やCerezoへアップロードするファイルサイズに制限があったことなどから教科書を読み、補助資料の空欄を埋める学習を進める遠隔授業を実施してきました。この授業のアンケートでは、補助資料の空欄を埋める学習は良いが、動画の解説が欲しいといった意見が多くありました。

そこで、本年度は講義動画を作成して長い動画がアップロードできるYouTubeの利用を考えましたが、私はこれまでに板書による講義しか行っていないため、パワーポイントを作成してから動画撮影には手間がかかることに悩みました。そんな中、予備校などでは板書スタイルの動画が配信されていることを知り、板書の講義動画を作成しようと思い立ちました。しかし、今度はビデオカメラがありません。どうやって撮影するか考えていたある日、テレビCMを見て、iPhoneで高解像度の動画撮影ができることに改めて気づき、iPhoneで板書の講義動画を撮影して、遠隔授業の資料として活用しました。

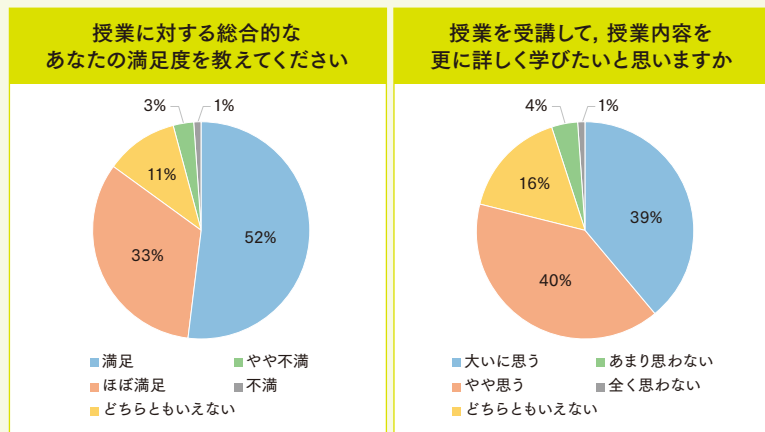
学生アンケートでは、「板書の動画は学習を進めるうえで役立った」、また「対面に近い雰囲気の中で集中できる」などの意見

がありました。身近にあるiPhoneによる板書の動画撮影で、小さな取り組みではありますが、遠隔授業の資料として効果的であることが分かりました。

薬学科 教授 井上 裕文



● 本学学生を対象に、前期の授業に対する授業評価アンケートを実施しました。受講生16,077名に対し、回答者数は9,195名でした。(回答率57.2%)  
ご協力ありがとうございました。授業に対するアンケート結果を一部紹介します。



### 授業に対する学生の声

#### ★ここが良かった！

「授業後に質問をした際に、すごく熱心に教えていただきました。本当に嬉しかったです。」  
「オンライン授業は不安でしたが、資料に音声が入っているなど教材が充実している授業はとても分かりやすく、授業内容をきちんと理解することができて楽しかったです。」

#### ★改善求む！

「課題提出の期限を伸ばして欲しいです。オンラインで課題を提出する際、通学時間などの兼ね合いによって課題に費やせる時間が少なくなるためです。」  
「先生に掲示板で質問をしても返信がなく困ったため、質問に対する先生からの回答が欲しいです。」

## 第47回 三蔵祭

### 経済学部 経済学科 福山大学キャンパス紹介動画を作成！

三蔵祭では、福山大学に来たことがない高校生や地域の皆さんに福山大学のキャンパスの魅力を学生目線でお伝えしたいと思い、キャンパス紹介の動画を撮影しました。

私は2019年4月に経済学部に入學したのですが、「緑豊かで広い校舎だな」というのが第一印象でした。4月には満開の桜が咲き、キャンパス内がとても綺麗です。また、スクールバス乗り場のすぐ近くにエスカレーターがあり、高校のキャンパスと違って近代的だと感じました。福山大学では2年生から自家用車通学が許可されているため、マイカーで登校している学生も多くいます。このため、大学構内には学生用に広大な面積の駐車場があります。また、キャンパスの南側には硬式野球部が練習に使用している野球場とサッカー部が使用しているサッカー場がありますが、どちらもとても広く、綺麗に整備されています。

動画内では上記のものを含め、福山大学の様々な施設についても紹介しています。自分たちで撮影した動画を繋ぎ合わせてテロップや写真を入れたり、移動途中のシーンは早送りしたりなど、慣れない動画編集の作業には苦労しましたが、興

味を持って見ていただけたら嬉しいです。この動画は8月のWebオープンキャンパスでも使用しました。また、福山大学に来られる際には、是非大学内の魅力的な施設をご覧ください。

経済学科 3年 佐藤 瑠子



### 経済学部 国際経済学科 「お茶文化と貿易」に関する紹介動画を作成！

私たちは、お茶文化について紹介する動画を作成しました。

緑茶の生産量は世界第1位が中国、続いて第2位が日本です。緑茶は日本を代表するお茶です。しかし、緑茶発祥の地は日本ではありません。日本のお茶文化は、中国からお茶の木が輸入されたことから始まったと言われています。日本の



お茶はどのように日本へやってきたか、皆さんご存じですか。

まず、「明庵栄西<sup>みやうあんえいさい</sup>」について紹介します。栄西は、平安時代末期から鎌倉時代初期の僧で、日本における臨済宗の開祖です。栄西は幼いころから頭が良かったようで、7歳のころには仏教の注釈本などを読んでいたと言われています。栄西は27歳のとき、天台宗を立て直すため、宋(当時の中国)へ渡って勉強しました。禅を一通り学んだ栄西は、一度帰国して再び宋に渡り、引き続き宋の寺院で学びました。4年後、教養を広めるレベルになったことを認められて日本へ帰国した栄西は、いよいよ布教に乗り出します。この2回目の帰国の際に中国からお茶の木を持ち帰り、京都のお寺で栽培し始めました。これが日本のお茶文化の始まりです。ちなみに、栄西は喫茶の習慣を広めたことでも有名です。

このようなお茶文化と貿易についてを動画で紹介しました。また、それ以外にも、日本と中国のお茶の飲み比べを行いました。普段何気なく飲んでいるお茶に、様々な歴史があることを知ることができました。

国際経済学科 1年 王 育菁

### 人間文化学部 メディア・映像学科 学びを活かして個人制作！

昨年度に引き続き、メディア・映像学科では三蔵祭において、2年次に履修する「基礎ゼミ」での成果を発表するオンライン発表会を行いました。

新型コロナウイルス感染症により、活動内容が制限された制作活動であったため、私たちはそれぞれに創意工夫をする必要がありました。当初、友人に機材を借りてアニメーションを制作する計画を立てていました。しかし、緊急事態宣言の延長を鑑み、その計画を変えざるを得なくなりました。

そこで考えたのが、Adobe社の「Illustrator」を活用したすぐろく制作です。ユーザーの遊戯性を喚起するため、誰もが楽しく遊べるようルールを工夫したり、遊んだことがないような一風変わった内容になるようこだわったりすることで、本学科での学びを存分に活用しました。

この発表会には、時間をかけて制作されたアニメーションや3DCG、ゲームなど様々な作品が出品されており、もっと学びを深めたいという気持ちが生まれました。そのような私たちの試行錯誤を、発表会に参加された方々に感じとっていた

だけたら嬉しいです。本講義での活動を通してオンライン展示の難しさを学びましたが、2022年度の三蔵祭では来場された方々に、是非、直接作品を見ていただきたいです。その日を楽しみにしつつ、技術と知識の習得に邁進していきます。

メディア・映像学科 2年 廣瀬 健人





## 工学部 機械システム工学科 機械システム工学科の紹介

機械システム工学科では毎年、自動車実習工場の公開や各研究室の研究内容の紹介、学生が取り組んだプロジェクト活動の紹介、全日本EV&ゼロハンカーレース参加車両の展示などを実施してきました。



今年の三蔵祭は、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、学内におけるイベント等は行わず、動画配信での開催となりました。機械システム工学科では、施設の紹介、研究内容の紹介、手作りEVの紹介の動画を作成して公開しました。

施設の紹介は、自動車関係の実習を行っている自動車実習工場と、工作機械がたくさん設置されている生産加工実習場を紹介しました。研究内容の紹介は、内田教授の2件の研究テーマを動画で紹介しました。また、学生の取り組みとしては、手作り電気自動車を製作し、全日本EV&ゼロハンカーレースに出場するEV創作の授業を紹介しました。私はまだ2年生で、3年生開講のこの授業はまだ履修していませんが、動画を見てこの授業を履修したくなりました。

私が入学した去年は、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮して三蔵祭は実施されませんでした。今年の三蔵祭も動画配信となりましたが、来年は多くの皆さんに会場にいらしていただき、楽しい三蔵祭が実施できればと思っています。

機械システム工学科 2年 船木 海翔

## 生命工学部 生命栄養科学科 今を乗り切れ！栄養 de Enjoy！！

入学して最初の三蔵祭で、「ユーチューバーを目指せ」という先生の無茶な提案に乗せられて、人生初の動画作品の製作に取り組みました。新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら祭りを盛り上げることに難しさを感じながら、自分にできることをしっかりと考えることで、三蔵祭を楽しむことが

できました。そして、「秋の味覚いっぱい☆カレー」(左下写真)や「食育かるた」(右下写真)など、食や栄養を題材とした5本の動画を仲間と一緒に完成させましたので、是非ご覧になってみてください。来年はどうしたらよいかと、今から楽しみです。

生命栄養科学科 1年 浜浪 雄志



## 薬学部 薬学科 挑戦 ～理想をかたちに～

「すべてが初めて。何をするにも手探り。」

2021年度の三蔵祭はオンライン形式での開催となったため、薬学部三蔵祭担当の各班が大学のホームページを通じて動画を発信することになりました。私たちは「三蔵祭を盛り上げ



よう！」そして、見てくださった方々に「福山大学薬学部の魅力を発信しよう！」という思いで動画制作に取り組みました。

決して動画完成までの道のりは簡単ではありませんでした。私自身に企画、動画撮影、編集までを行う動画制作の経験がなかったため、どういう手順で動画を作成するのか、そもそも何を企画して見てくださった方々に楽しんでもらおうか、などたくさんのことを班のメンバーと話し合いました。時には、先生や先輩にアドバイスをいただきながら、1つずつ手探りでやりたいことを形にしていきました。また、伝えたい内容は間違っていないか、動画での声のテンションや音量などにも、こだわりのもって取り組みました。そして、1本の動画を完成させることができました。

初めての動画制作は大変なことがたくさんありましたが、私にとって貴重な体験となりました。

私が1人で動画制作をできるはずがありません。班のメンバーや先生方、そして先輩方の協力のおかげで、頭に描いた理想を形にすることができたと思っています。

薬学科 3年 藤井 惇一



## 2021年度 第45回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場について

### 【戦績】

「2021年度(第45回)中国大学サッカー選手権」において優勝※し、「2021年度 第45回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」に出場を決めました(5年ぶり7回目)。

※本年度の「総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」は、中国地区から2チーム参加できるシーズンでした。

そのため「中国大学サッカー選手権」は、コロナ渦ということで決勝戦は行わず、決勝に進出した2チームが両校優勝となりました。

### 「2021年度(第45回)中国大学サッカー選手権」戦績(無観客試合)

- ◆ 2回戦 7/11 vs 広島工業大学 9 - 1 ○ @ 福山大学(1回戦はシード)
- ◆ 3回戦 7/18 vs 福山平成大学 2 - 1 ○ @ 福山大学
- ◆ 準決勝 7/25 vs 広島経済大学 4 - 0 ○ @ 福山大学

### 「2021年度 第45回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」戦績(無観客試合)

- ◆ 2回戦 8/26 vs 山梨学院大学(関東地区第4代表) 1 - 5 ●  
@ 流通経済大学フットボールフィールド(1回戦はシード)



### 【総評】

平素より学友会サッカー部を支えていただいている関係者の皆様に、衷心より感謝申し上げます。

また、コロナ渦ということで活動に様々な制限をせざるを得ない状況ですが、大会に参加させていただき、ことに重ねて感謝申し上げます。

「2021年度(第45回)中国大学サッカー選手権」では、5年ぶり7回目の優勝を勝ち取ることができました。結果としては素晴らしいものになりましたが、順風満帆というわけにはいきませんでした。昨シーズンのメンバーは4年生が多く出場しており、今シーズンのメンバーについてはどうしても経験不足は否めない状況にありました。そのような中で、1戦1戦成長していき、タイトルを獲得することができました。

「2021年度 第45回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」では、関東地区第4代表の山梨学院大学と対戦しましたが、相手の高強度と高精度なプレーにより押し込まれる展開が続いた試合となりました。しかし、ここで全国大会における“プレーの基準”を得ることができましたので、夏以降の試合と練習でこの“プレーの基準”にチャレンジを続けています。

我々は、全国大会での勝利をお届けする段階に入っていることを認識しています。簡単なミッションではありませんが、是非成し遂げたいと考えています。

これからも進化を続ける学友会サッカー部をよろしくお願い申し上げます。

学友会サッカー部 監督 的場 千尋

## オンライン研究成果発表会を開催！

社会連携センターは、教育研究活動を通して得られる知識や技術、教育上のノウハウを社会還元するために、研究成果発表会を初回の2015年度から2019年度まで対面形式で毎年開催してきました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、対面形式での開催は無理と判断し断念しましたが、2021年度は9月13日(月)～9月20日(月)にかけて、初めてインターネット上によるオンラインで開催しました。

オンライン研究成果発表会は、インターネット上で開催することでのメリットを活かし、より多くの方々に研究成果をお届けし、多様なご意見やご質問をいただき、福山大学の教員が意見や質問に回答していくことで、対面形式で開催する発表会と同等以上のスピードで研究成果の技術移転、地域振興及び産業の発展に寄与することができました。

2019年度までは、30分程度の特別講演2題と約1時間30分のポスターセッションの2部制でしたが、今回は初めての試みということもあり、本学教員の発表だけとなりました。発表数は5学部14学科及び5センター、1研究所から計57題で、発表は発表者が以下の(1)から(3)の発表形式を複数選択して行いました。

- (1) ビデオ発表(YouTube)
- (2) 研究成果概要の関係論文・その他研究情報
- (3) 交流会：発表者が指定した時間にZoomにて実施

なお、この研究成果発表会の発表集や全教員の研究者情報一覧もホームページに掲載しました。

2021年度の発表会は手探りによる初めての試みでしたが、大きなトラブルもなく終えることができました。教員にとっても、身近な研究者の研究内容や発表形式の良し悪しなどが参考になったと思います。次回もオンライン開催になれば、今回の経験を活かしたいと考えています。

社会連携センター 助教 中村 雅樹





## 「BINGO OPEN インターンシップ 2021」

1,252名。この人数は、今年で12年目を迎えるBINGO OPEN インターンシップの累計参加者数です。これまでに1,200名を超える数の学生が、備後地域を中心とする企業・行政機関のインターンシップに参加し、地域で働くことの魅力や意義を肌で感じて帰ってきました。このように多くの学生たちを快く受け入れ、数多くの学びと成長の機会を与えてくださいました地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、今年度のインターンシップ運営にも影響を与えましたが、昨年の経験を踏まえた感染対策のもと事業の継続に取り組んだ本学は、With / Afterコロナ時代に求められるインターンシップのあり方に更に一步近づき一年となりました。8月下旬の緊急事態宣言発令により、実習が急遽延期もしくは中止となった企業もありましたが、受け入れ企業数35社、参加学生数89名が夏期のインターンシップに参加し、成長した様子を私たち教職員に伝えてくれました。学生たちにとって今年度のインターンシップは、通常の業務体験に加え、コロナ禍への対応やこれからの働き方についても学ぶことができた、貴重なインターンシップだったのではないのでしょうか。



事前研修 開会の挨拶の様子

昨年度は、備後地域4大学での合同開催はできませんでした。今年度は、一堂に会しての企業説明会を見送ることになったものの、2019年度までのように福山大学が中心となってオンラインで企業情報を共有・運用する体制を整えました。従来の対面型インターンシップに加え、全プログラムがインターネットを通じて提供されるオンライン型、対面型とオンライン型のメリットを融合させた混合型など、学生たちが自分に合った実習プログラムを選択できる内容に進化を遂げました。

インターンシップの学修効果を高める方略として、本学が最も力を入れている事前・事後研修は、昨年度のオンライン実施の経験を活かし、同じインターンシップに参加する者同士でのラーニング・コミュニティを形成すべく、オンライン会議ツール「Zoom」のブレイクアウト機能を利用したワークを導入しまし



企業経営者にオンラインでインタビューする様子

た。また、社会人基礎力の事前診断結果をもとに、インターンシップを通じて成長させたい能力要素を明確化する目標設定ワークも例年通り実施しました。さらに、自分未来創造室のスタッフによる丁寧なグループ分けと運営サポートによって、対面での事前研修と同等、それ以上に効果的な研修を行うことができました。



工場で実際に手を動かして鑄造体験を行う様子

今夏は、オンライン型のプログラムが大幅に増え、内容にも様々な工夫が見られました。例えば、対面型実習では参加学生同士が休憩時間に自然と仲良くなるのに対し、オンライン型実習では交流する機会を意図的に作らなければ他人行儀のままで、グループワークにマイナスの影響が現れます。そこで、ある企業はプログラムの中にゲーム要素を加え、参加学生同士のコミュニケーションを促しながら、課題解決に取り組んでもらうような仕掛けを加えたといいました。また、質問や相談を参加者全員へ一斉に声を掛けるのではなく、休憩時間に直接電話で個々に連絡をするような工夫も効果的だったようです。この1年間でオンライン活用のノウハウが企業側にも蓄積されており、オンライン型のプログラムが大幅に改善されたことを伺い知ることができました。



事前研修 グループワークの様子

今年度の実施に際しては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に関連するすべての人々が考え得る最大限の努力を払い、「冷静に行動」と言えます。客観的に対応体制を検討していただき、開催を見送る判断をされた企業・団体もありましたが、感染状況の落ち着きを機に、現在は冬期インターンシップの受け入れについても計画してくださっています。自分未来創造室では、冬期の実習に臨む約30名の学生たちも、引き続き全力でサポートしていきます。

キャリア形成支援委員会 副委員長  
大学教育センター 講師 前田 吉広



# 市民フォーラム2021「災害時の食事と栄養」

主催：福山大学生命工学部生命栄養科学科

講師：広島市役所危機管理室 専門監 丹羽 浩之

生命栄養科学科 准教授 吉田 純子

11月6日(土)、学校法人福山大学社会連携推進センターにて、市民フォーラム2021「災害時の食事と栄養」が開催されました。広島市役所危機管理室の専門監 丹羽 浩之先生による講演「災害に備える」では、実際に訪れた被災地での食事提供の方法や避難所の様子を教えていただきました。

災害直後は被災地で、県備蓄救援物資や国プッシュ支援救援物資として乾パン、クラッカー、 $\alpha$ 化米、カップ麺等が避難者に提供されたとのことです。ただし、地域によっては2～3日遅れて提供されました。



石井学科長の開会挨拶

その後、県提供の給食献立を自衛隊災害派遣部隊が調理し、各避難所に輸送した被災地もあります。しかし、別の被災地では市が給食献立作成や食材・食器等の調達ができず、自衛隊災害派遣部隊が米のみを炊飯し、避難者(女性会等)が提供された米飯と塩でおにぎりを握ったそうです。その後、約1週間経過して、ようやく市調達食品(パン、弁当等)が提供されました。

平成30年7月の広島市では、災害直後から市備蓄救援物資や市調達食品が提供され、アレルギー対応弁当や減塩弁当も用意されたそうです。これらにより、避難所での食事提供は、自治体の準備状況によって差があることを知りました。

参加者からは「福山市ではどうなるのでしょうか?地域で



丹羽 浩之先生(右)と吉田(左)

のような準備をしておいたら良いでしょうか?」と質問が出るなど、将来起こり得る南海トラフ巨大地震に対して現実味を感じておられる様子でした。丹羽先生からは、避難所運営は行政を頼らず住民の自主運営で進めるとスムーズであり、日頃から町内会で話し合っておくこと、またリーダーを立て、防災訓練や運営訓練をしておく必要があるとのことでした。

給食提供の注意点は、給食事業者や自衛隊災害派遣部隊は、食材の調理と調理された給食及び食器の運搬はできるが、食器配膳はできないことです。従って、避難者が相互に配膳する場合、食中毒や経口感染症による事故のリスクが伴います。絶対に事故を発生させてはならず、細心の注意が必要です。一方、弁当は配膳に伴う食品衛生管理上のリスクがないところが良い点です。ただし、現実には弁当が続くと心理的な弁当への忌避感情から不満の声が出るそうです。コスト面では、弁当よりも調理された給食の方が、給食事業者が有償で調理・運搬してもやや割安とのことでした。これらにより、災害時の食事提供は一律ではなく、臨機応変な対応が迫られることが分かりました。丹羽先生のご苦勞を拝察するとともに、我々住民は平常時から心構えや備えをしておくことが大切であると改めて感じました。



会場の様子

続いて、私の講演「災害時こそ、心と体に栄養を!」では、非常食及び災害時の「食べる」問題と心身への影響について話しました。災害発生から救急体制が整うまで3日はかかるため、非常食は「最低3日分～1週間分×人数分」を確保することとしています。普段、食べ慣れている食品(缶詰、レトルト食品等)と長期保存(約5年)可能な食品の両方を備えておくことをお勧めします。栄養問題では、「配給食は食べ慣れない」「冷たくて硬い食品が多い」「乳製品・肉・野菜の摂取不足」「栄養のアンバランスによる精神面の不調」「炭水化物・脂質・塩分の過剰供給(菓子パン、カップラーメン等)と肥満」などがあります。これらの問題を解決するために、管理栄養士が支援している実践例(避難所での食事調査、個別相談・助言、バッククッキング)を紹介しました。

最後に、丹羽先生及び参加者の皆様と活発な意見交換ができ、有意義なひとときを過ごせたことに感謝申し上げます。

生命栄養科学科 准教授 吉田 純子



# 「福山市の10年後は〇〇!!」ソフトバンク株式会社による特別講義

福山市と連携協定を結ぶ、ソフトバンク株式会社による市内の大学・短期大学校4校合同の特別講義が実施されました。これは福山市のデジタル人材育成の一環で、先端技術や課題解決の手法を動画やグループワークで学びました。

10月9日(土)のキックオフでは、福山大学、福山平成大学、福山市立大学、福山職業能力開発短期大学校の学生約60名が参加し、本学は経済学部から高羅ゼミ、佐野ゼミ、長濱ゼミ、工学部から情報工学科の計4グループが参加しました。

そして、今年のプレゼンテーマが紹介されました。

あなたは今、福山市の未来を決めるリーダーに選任されました。福山市の未来について真剣に考えましょう!

## 「福山市の10年後は〇〇!!」デジタル技術を活用した地域づくり ～誰もが地域で生き生きと、便利で快適に暮らし続ける～

特別講義を通して、次のような目標を達成することが目指されています。

- テクノロジーによる未来の変化を自分ごととして捉え、福山市の将来を本気で考える
- ソフトバンク流の仕事を体感する
- 社会人との交流の中で、ビジネスで求められる基礎スキルを習得する

11月3日(水)の発表に向けて、約1か月にわたってサポート役のメンターとしてソフトバンク株式会社の社員が、グループでアイデアをまとめるサポートをしていただきました。

グループワークの前に、座学としてオンラインコンテンツを受講しました。座学では、ソフトバンク株式会社についての紹介とともに最新のテクノロジーについて学習しました。さらに、グループワークや最後の発表会に向けて、プレゼンテーション研修も受講しました。

グループワーク1回目は、各グループの実施場所にメンターが訪問する形で実施されました。情報工学科のグループでは「環境問題」のサブテーマのもと、グループワークを進めました。議論では、メンターが「いいね!」「それおもしろいね!」と盛りあげてくださるとともに、見事にタイムスケジュールされた中、議論が進んでいきました。

グループワーク2回目は、ソフトバンク株式会社福山事業所にて仕事の風景を見学させていただくとともに、福山市内での数々の取り組みを紹介していただきました。また、会議室にてメンターのもとグループワークを実施し、最終回のプレゼン大会に向けてグループのアイデアの確認を行い、プレゼンテーションの流れまでを作りました。

グループワークは、メンターのもと2回がオフィシャルに行わ

れましたが、参加した学生たちはプレゼン大会に向けて、時間外にも集まり、積極的に議論していました。高羅ゼミでは「子ども・子育て」のサブテーマのもと、福山市が現在取り組んでいる妊娠から子育て期までの切れ目のない支援「ネウボラ」について、現場の最前線である市のネウボラ部門にインタビューに行ってきました。

そして、11月3日(水)のプレゼン大会では、グループごとに課題解決に向けた提案を発表しました。ソフトバンク株式会社の社員と福山市の職員が、実効性や施策としてふさわしいかなどを基準に順位を決定しました。

審査の結果、高羅ゼミが見事に審査員賞と学生投票賞の2冠を達成しました。

### 発表タイトル

「子育て×テクノロジー  
10年後、子育てNo.1都市「Fukuyama」に!」

以下は、参加した学生の感想です。

「発表時間5分という制約のなかで、どんな資料を作成してどう説明すれば、相手はなるほどと納得するのか、最終発表会に向け1週間、毎日朝から夜までメンバーと議論を重ねてきました。メンターや先生からの助言を受けながら、自分たちが主体となって最終発表までたどり着けたことは大きな自信となりました。途中何度もくじけそうになりましたが、この頑張りが評価されて、審査員賞と学生投票賞の2冠を達成できて、とても嬉しいです。」

経済学科 講師 高羅 ひとみ  
情報工学科 教授 中道 上



ソフトバンク株式会社による特別講義キックオフ



ホワイトボードでターゲットを見える化して整理



福山市役所のネウボラ部門との意見交換会



審査員賞と学生投票賞を受賞



## 3 密を避けて川崎医科大学の学術集会で発表！

第12回川崎医科大学の学術集会在、7月31日(土)に開催されました。INPIT(独立行政法人工業所有権情報・研修館)の産学連携知的財産アドバイザー派遣事業での連携が縁で、この学術集会上に2015年から参加しています。

学術集会上は、新型コロナウイルス感染症対策として、出入り口での手指アルコール消毒や出入り口の常時開放、検温で体



温が37.5℃以上であれば入場制限、会場内は入場定員を減らして座席間隔を空け、マスクは各自で用意するなど、万全の感染防止対策を講じての開催となりました。

この学術集会上、本学は1題の口頭発表と3題のポスター掲示による発表を行いました。発表者は、薬学部薬学科の上敷領 淳准教授、松岡 浩史准教授、木平 孝高准教授の3名で、発表題目は以下のとおりです。

- ◇上敷領准教授：コレステロールトランスポーター NPC1L1 による $\alpha$ -トコフェロールの認識と細胞内取り込み
- ◇松岡准教授：動脈硬化抑制に関わる核内受容体の標的遺伝子の探索と創薬応用
- ◇木平准教授：腎虚血再灌流障害におけるグルタチオン分解酵素を介したアポトーシス発現制御

社会連携センターは、これからも他大学との研究交流や共同研究の更なる進展を目指して活動していきます。

社会連携センター 助教 中村 雅樹

## 経済学部×工学部

## みらい工学プロジェクトで地元バスケットチームのファンサービスをデザイン！

みらい工学プロジェクトは、工学部の各学科が協調して取り組む学科横断型の教育プロジェクトです。その中の「UXデザインに基づくサービスデザインプロジェクト」では、地元福山市のJFEスチールバスケットボールチームからの依頼のもと、地域とともに発展するチーム作りを推進するためのファンサービスを、経済学部経済学科スポーツマネジメントコースの中村和裕先生と協働でデザインしました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多くの時間は遠隔での実施となり、ZoomミーティングやMiroオンラインホワイトボードツールを駆使して、UXデザインの手順に従ってスマートフォン上で提供するサービスのデザインを進めていきました。また、SA(スチューデントアシスタント)がZoomの各グループのルームをこまめに見まわりながらアドバイスすることで、スケジュール通りに進めることができました。

SAとして活躍してくれた情報工学科4年生の山上君と渡邊さんからコメントをいただきました。

山上「オンラインでのグループ演習なので、Zoomのプレイ

アウトルームを行き来していましたが、Miro上で各グループの進捗状況を先生とも把握して、アドバイスできました。」

渡邊「今回は、演習を通して自分自身もUXデザインをちゃんと理解したかったので、実際の企業のワークショップと同じ経験ができたのは良かったです。」

経済学科 講師 中村 和裕

情報工学科 教授 中道 上



## 『栽培漁業の変遷と技術開発—その成果と展望』が出版されました！

皆さん、栽培漁業という言葉をご存知でしょうか？栽培漁業とは、人間が人工的に作った魚介類の子供たちを天然の海に放流して、対象種の資源と一緒に管理し、持続的な利用を進めていく取り組みです。

この事業に不可欠な魚介類の飼育手法は60年前に日本で開発され、今では世界各地で応用されています。代表的なヒラメやマダイをはじめ、クロマグロやマダコなど約150種もの飼育が可能となりました。言葉にしてしまうと簡単なのですが、わずか数mmの脆弱な仔魚を水槽の中で健全に、かつ大量に育て漁獲に繋げるためには、良質な卵の確保や餌

となるプランクトンの培養、仔魚から稚魚までの効率的な飼育、放流やその効果の把握など、多岐にわたります。

この度、これらの技術体系を取りまとめ、出版しました。作業工程ごとに、総論と魚種別の各論で構成するとともに、用語解説やコラムを付け加えることで、親しみやすく、理解しやすくしてあります。将来、水産技術系の進路を考えている学生の皆さんはもちろん、魚介類の生物学的な知識を得る書籍としても楽しんでもらえるのではないかと思います。興味のある方は、是非手に取ってみてください。

詳しくは、以下のURLをご覧ください。

恒星社厚生閣

<http://www.kouseisha.com/book/b584973.html>

海洋生物科学科 教授 有瀧 真人





## 98名の学生がビジネス能力検定3級に合格！

私は、7月に行われたビジネス能力検定3級の試験に合格しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、ビジネス能力検定



対策講座はオンラインで行われましたが、解説動画を見たり公式テキストの問題を繰り返し解いたりして勉強しました。

試験対策を通して、将来就職した時に必要になってくる知識やビジネスマナーを中心に学ぶことができました。3級を受けてみて思ったことは、過去問題集をしっかりと解くことができれば試験でも問題ないということです。実際の試験では、過去問題集とは違うものも多く出題されましたが、問題の形式はほぼ一緒だったので、繰り返し解くことをお勧めします。

次は、12月にビジネス能力検定2級の試験を受けようと考えていますが、2級は難易度が上がると聞いたので、3級の試験であまり点数が取れなかった組織・業務基本とコミュニケーション手法の分野を重点的に勉強していきたいと思います。

私は将来公務員試験を受け、市役所で働きたいと思っています。そのために公務員試験対策はもちろん、今のうちに数多くの資格にチャレンジしたいと思っています。今後は、ビジネス能力検定2級、日商簿記検定、MOS検定など取れる資格はすべて取る気持ちで勉強していきます。

経済学科 1年 高木 康成

## スポーツマネジメント論でスポーツと福山市の魅力を発信！

「自分たちにとって身近なスポーツを通して、福山市をどう活性化させるか」答えのない問題について意見を出し合い、主体的に授業に取り組むことができました。

この授業にはスポーツ団体の方も参加されており、特に福山シティFCの岡本代表の「強い思い、ビジョン、ミッション、バリュー」という言葉が心に響きました。相手に自分たちの思いを伝えるためには、思い描く理想像とその目的・重要性を明確にする必要があるということを学びました。

私たちのグループでは、スポーツと福山市の魅力を多くの人に伝えるために動画を作成し、TikTokで発信することを提案しました。重視したのは「楽しさ」です。動画を見て楽しく運動しながら、福山市も知ってもらえるよう工夫しました。背景は自分たちで撮った福山市立動物園にして、中村和裕先生に腕立て伏せや膝曲げ運動をしていただき、吹き出しでおすすめポイントを紹介しました。

グループのメンバーから意見を引き出したり、まとめたりするのは大変でしたが、他の履修生や講師の先生方からいただいた助言をもとに話し合いを重ね、形になったときは達成感

がありました。3年次のゼミでも授業で学んだことを活かして、このテーマについてより深く取り組んでいきたいです。

経済学科 2年 岩本 りこ



## メディア実践でコミュニケーション能力を養う！

2年生と3年生を対象に合同開講されている「メディア実践」では、毎年「ACジャパン広告学生賞」に応募する作品を制作しています。メディア・映像学科はこれまで13年連続で入賞しており、作品応募は私たちの制作意欲を掻き立てるものになっています。



本講義は、CM案を企画し、それを映像化して、学生が互いに作品を講評するという流れで進んでいきます。スケジュールを鑑みて見通しを立て、グループメンバーとともに作品を完成させ、応募するまでのプロセスが評価されます。また、2学年が混在するグループ活動において、技術や知識を共有することを通じて、協働する力を育むことも期待されています。

本講義の利点は、次の2つです。3年生は、前年度の経験を活かして後輩を支援する力を育めること、そして他者とのコミュニケーション方法を経験的に学びながら、創意工夫する時間を得られることです。2年生は、表現方法の工夫を他者から学びながらそれを実践的に身につけられること、そして人的ネットワークを拡大できることです。こうした利点は、映像制作の経験を積むにとどまらない本学科の魅力と言えるでしょう。

新型コロナウイルス感染症により、オンライン・コミュニケーションを活用して制作した作品が評価されたことは大きな喜びとなりました。今年も作品応募を目指し、CM制作活動に没頭しています。

メディア・映像学科 3年 前川 風河



## 「草戸千軒お化け屋敷」を開催！

私はこの夏、ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）と人間文化学部心理学科主催の「草戸千軒お化け屋敷」に参加しました。このお化け屋敷は、草戸千軒の町並みを実物大に復元した博物館内の展示室を舞台とし、「草戸千軒の歴史と心理学的知見を掛け合わせたお化け屋敷」をテーマに開催されました。5月から7月の本番に向けて、演出組と裏方組のそれぞれのリーダーを中心に話し合いを重ね、準備を進めていきました。

お化け屋敷当日、私は演出組としてお化け役を演じました。緊張と不安の中で迎えた本番でしたが、練習の成果もあり、見事なチームワークでやり遂げることができました。お客さんの驚く声や叫び声を聞いたときは、お化け役として非常にやりがいを感じ、終了後にお客さんの楽しそうな表情を見た際には、達成感がこみ上げてきました。

「草戸千軒お化け屋敷」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながらわずか2回の開催で幕を閉じましたが、参加されたお客さんには、歴史博物館や草戸千軒の歴史、あるいは心理学に対して、興味・関心や良い印象を持っていただ

けたのではないかと思います。私自身も、この「草戸千軒お化け屋敷」の企画・運営に関わった経験が間違いなく自分の中に良い影響を与えているということを、日々感じています。



心理学科 3年 宇山 真依子

## プログラミング実習で「NoCodeセミナー」を実施！

スマートシステム学科では、1年次後期にプログラミング基礎、2年次前期にプログラミング実習があります。今年度前期のプログラミング実習の授業では、外部講師による「NoCodeセミナー」を2週にわたって受講することができました。



NoCodeとは、非常に複雑な数式や構文を記述するプログラミングの作業はせずに、図形を並べたり繋げたりすることでアプリを作成する技術です。今回は、講師の先生の説明を聞きながら、NoCode開発プラットフォーム「Click」を利用して、遠隔授業でアプリ開発の実習を行いました。

これまでのプログラミング関連の授業では、パソコンを用いてC/C++言語などのプログラムを書いていく勉強が中心だったので、最初は少しとまどいました。「Click」は、プレゼンテーション資料を作るようにボタンやスイッチ、アイコンなどの部品を画面のスマートフォンの枠の中に配置し、クリックで画面が切り替わるように設定します。このような作業なので、まるでゲーム機のソフトで遊んでいるような感覚でアプリ作成ができました。作成したアプリは、QRコードで各々が持っているスマートフォン端末にダウンロードして実際に使えることに驚きました。

今回の遠隔授業は、大学や自宅にしながら外部講師の実習指導を受けることができ、新しい「ものづくり」のコンセプトに触れることができる貴重な学習でした。

スマートシステム学科 2年 市川 智也

## びんご建築女子建築見学ツアー&フォトコンテストを開催！

新型コロナウイルス感染症によって、長らく開催を見合わせていた「びんご建築女子建築見学ツアー」を開催するために、地元の尾道を活用した徒歩での建築見学ツアーを企画して8月10日(火)に行いました。

企画は、「びんご建築女子見学ツアー建築物フォトコンテスト in 尾道」というもので、参加者を少人数のグループに分け、各グループでU2・千光寺・尾道市立美術館・フクロウの館・旧和泉家別邸・北村洋品店・尾道新市庁舎の7地点から行きたい場所を選び、ルートを決めて巡回する形式で開催しました。さらに、各地点でフォトコンテストに出品する用の「建物が写っており、尾道らしさが出ている写真」を撮り、ツアーの最後にプロジェクターを使って写真を披露し、学生と引率教員が共に優秀作品を選ぶフォトコンテストを行いました。

今回の建築見学ツアーは、新型コロナウイルス感染症対策として、グループごとに分かれて移動しました。昼食や話し合いなどを行うことが多くなりましたが、全員と交流を深めることはできずとも、同じグループになったメンバー間での交流は、例年のツアーにも増して深めることができたと思います。また、各地点で空き家の利用方法や有名建築家が残した作

品の細部などを実際に目で見て、様々なことを感じ取ることができ、地域の良さを理解する良い機会になりました。

建築学科 3年 梶原 未智瑠





## ピオーネを使ったレシピ開発！

私は卒業研究として、広島県三次市のピオーネを使ったレシピ開発に挑戦しました。これは、広島県農林水産局「令和3年度ひろしま地域食材PR促進事業」として取り組んだものです。

レシピ考案の前にピオーネ園場を訪問し、栽培法やブランド確立までの取り組みなどを三次ピオーネ生産組合の方から丁寧に教えていただきました。生産者の方々の想いを受け取り、レシピ開発にも力が入りました。

三次市のピオーネは、「黒い真珠」と呼ばれるほど美しく、大粒で抜群の美味しさで、贈答品として好まれています。一方で、大学生などの若年層は食べる機会が少ないようです。そこで、若い世代に好まれるピオーネスイーツを考案することになりました。

同じゼミの仲間と「ピオーネゼリー」「ピオーネシフォンケーキ」「ピオーネクリームクッキー」の3種を開発しました。ゼリーは、下層はミルクゼリー、上層は透明ゼリーにフレッシュなピオーネを閉じ込め、ピオーネ粒の美しさを際立たせました。また、規格外のピオーネの活用として、ピューレにしました。シフォンケーキ生地にはピューレを加えると、薄紫色の綺麗なケーキが焼き上がりました。濃縮ピューレをクリームと合わせたピオーネク

リームは濃厚なピオーネ風味で、シフォンケーキ、クッキーとも相性抜群です。

このレシピ開発を通して、広島の地域貢献に繋がることを願っています。

生命栄養科学科 4年 安部 満



## 疾病予防の未来を照らす遺伝子教育！

私たちが所属する「病態生理・ゲノム機能学研究室」では、昨今、医療現場で注目されている「遺伝子と疾病予防の関係性」について、病気になる前の早期に理解してもらうことで、



疾病予防に対する意識向上に繋がたいと考えています。

7月19日(月)に尾道市立西藤小学校へ赴き、5・6年生を対象に、遺伝子を利用した未病対策に関する啓発活動を行いました。まず初めに、小学校の教室と未来創造館の実験室をFaceTimeで接続して生中継することで、小学生に大学や研究活動を身近に感じてもらいました。少し場が和んだところで、遺伝子に関する選択肢問題を解いてもらいました(プレテスト)。その後、私たちが自主制作した動画講義を10分間視聴してもらい、再度、同様の選択肢問題を解いてもらいました(ポストテスト)。そして、プレ・ポストテストの結果に基づき、啓発活動の有効性を調査しました。その結果、動画講義後に点数が増加したことから、小学生の高学年への啓発活動の有効性が認められました。

今後も小学生や中高生への啓発活動を継続することで、疾病予防のための意識が根づいた未来を築いていきたいです。まずは、この「遺伝子教育」に関する啓発活動がその一助になることを願っています。詳細は、学長室ブログをご覧ください(<https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/52798/>)。

薬学科 5年 吉岡 利紗・山岡 愛主

## 寸劇による健康講座のYouTube配信！

私が所属している実践医療薬学研究室では、地域の皆さんに薬の飲み方や感染症対策など、健康に役立つ情報をお伝えする「健康講座」という取り組みを行っています。この取り組みの一環として、私たちは寸劇形式で健康講座を行い、その様子をYouTubeで配信しました。

寸劇では、薬と食品の飲み合わせやお薬手帳の大切さ、マスクの正しい着用方法についてお伝えしました。皆さんはお薬手帳をご存知ですか？お薬手帳とは、薬局などで受け取った薬の情報が載っている手帳です。この手帳を薬局の薬剤師に提示することで、皆さんの薬の情報が薬剤師に伝わり、安全に薬を飲んでいただくための情報の管理に役立てられます。

健康講座では、小さいお子さんへの苦い薬や水薬の飲ませ方についても発表しました。服薬補助ゼリーを使って薬を飲む場合は、ゼリーで薬を包み込むのですが、その様子を服薬補助ゼリーと薬を使って実演しました。また、坐薬を半分に切って使用する際は真横ではなく、斜めに切って使うということも薬を切りながら実演しました。薬やぬいぐるみを使って実演することで、イメージしやすいように工夫しました。

寸劇は、これまで授業で学んだことを取り入れ、薬局の現場で起きていることを教えていただきながらシナリオを制作し、実演しました。これからも、地域の皆さんの健康に役立つ身近な情報を発信していきたいと思っています。

薬学科 4年 小田原 遥香



## 入試広報室から

### ◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月7日(月)～11日(金)の計5日間、中国・四国・九州の9会場で開催しました。本学会場では大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で各大学の施設・設備を見学後、未来創造館で両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計9県70校72名でした。

### ◆進学相談会(業者主催)

今年度の業者主催の進学相談会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止・延期となる会場もありましたが、感染拡大防止対策が徹底された環境の中、各地区で開催されるようになり、中国・四国・九州の18都市40会場で高校生・保護者・教員の進学相談に応じました。

### ◆高等学校 生徒・教員の本学訪問

高等学校の上級学校訪問を受け入れています。こちらも新型コロナウイルス感染症の影響で、例年より訪問高校数は減少し、福山大学への訪問は7校338名でした(11月末現在)。

## 令和4年度 一般選抜前期A日程・大学入学共通テスト利用選抜(前期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出 願 期 間	令和4年1月5日(水)～1月25日(火) 消印有効	
試 験 日	令和4年1月31日(月)～2月3日(木) ※試験日自由選択制 (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。)	
合 格 発 表 日	(一般選抜前期A日程) 令和4年2月8日(火) (大学入学共通テスト利用選抜(前期)) 令和4年2月10日(木)	
試 験 地	【1/31～2/3】本学・福山(社会連携推進センター)・広島・山口・福岡・岡山 【1/31】鳥取・浜田・宮崎 【2/1】米子・大分 【2/2】静岡・京都・熊本 【2/3】名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】松江・高松・今治・小倉	

## 令和4年度 一般選抜前期B日程

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出 願 期 間	令和4年2月4日(金)～2月15日(火) 消印有効	
試 験 日	令和4年2月18日(金)	
合 格 発 表 日	令和4年2月22日(火)	
試 験 地	本学・福山(社会連携推進センター)・広島・岡山	

## 令和4年度 一般選抜後期日程・大学入学共通テスト利用選抜(後期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出 願 期 間	令和4年2月24日(木)～3月1日(火) 消印有効	
試 験 日	令和4年3月5日(土) (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。)	
合 格 発 表 日	令和4年3月9日(水)	
試 験 地	本学・福山(社会連携推進センター)・広島・福岡・岡山・大阪	

### ◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

### ◇入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置について◇

福山大学では、地震・豪雨等により災害救助法が適用された地域において被災された方に対して、申請に基づき、本学入学試験受験生に対する入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置を行っています。詳細については、入試広報室までお問い合わせいただくか、ホームページをご確認ください。

## 編集後記

学報第170号でも、コロナ禍のもとでの大学の取り組みについてお伝えする内容が多くなりました。学生、教職員もオンラインでの活動、直接の活動が混在する中で、様々に工夫しながらその力を発揮しています。今後も、変化する状況のもとでのいろいろな本学の情報や取り組みをWebサイトなどとも連携しつつ、わかりやすく伝えてまいります。

発 行 福山大学  
編 集 福山大学広報委員会  
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵  
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<https://www.fukuyama-u.ac.jp>